

赤外線伝送方式による 英語リスニングテストの試行実施調査

椎名 久美子ⁱ 内田 照久ⁱ 杉澤 武俊ⁱⁱ

本研究では、大学入試センター試験での英語リスニングテストの実施方法の改善を目的として、赤外線伝送方式による試行実験を行った。赤外線伝送方式は、音声を目に見えない赤外線で伝送し、受験者が着装したヘッドホンでそれを受光、受信して音声を提示するワイヤレス放送の一つであり、いくつかの個別大学における入学試験の英語リスニングテストで用いられていた実績がある。本研究では、長期的な視点で各種方式の比較対照を行う目的で、赤外線伝送方式と、現在センター試験で採用されている個別音源方式について、それぞれの長所や短所、センター試験での実施方式としての適否について、多面的な観点から検討を行った。

検討に当たっては、センター試験の標準的な試験会場の規模を念頭において、大学1年生をモニター生とした試行実験を行った。試行試験では、同じ条件の二つの試験室の被験者に対し

て、実際のセンター試験の英語リスニングテストを、異なる方式で受験させた。実験群の受験者に対しては、本試験はICプレーヤー方式で、追試験は赤外線伝送方式で実施した。対照群の受験者に対しては、本試験も追試験もICプレーヤー方式で実施した。実験群と対照群の試験成績を比較すると共に、試験後に受験者に対して実施したアンケートによる評価の分析を行った。

実験群と対照群の両方が現行のICプレーヤー方式で受験した本試験の英語リスニングテストの得点の平均値に有意差は認められず、両群の学力は同等とみなせることが確認できた。そして、実験群と対照群が異なる方式で受験した追試験についても、英語リスニングテストの得点の平均値に有意差は認められなかった。すなわち、ICプレーヤー方式と赤外線方式という実施方式の違いに関して、成績への有意な影響は認められなかった。

ⁱ 研究開発部 試験評価解析研究部門

ⁱⁱ 研究開発部 試験評価解析研究部門 (現職新潟大学)

実験群に対して、本試験のICプレーヤー方式で用いた付属イヤホンと、追試験の赤外線伝送方式で用いたヘッドホンについて、アンケートの質問事項への回答傾向を比較したところ、「装着に困ることがあったか」「左右の区別が分かりやすかったか」「レシーバーは耳のところで安定していたか」の3項目では、ICプレーヤー付属イヤホンよりも赤外線ヘッドホンの不満が大きかった。ただし、ヘッドホンに関する不満の大小に関して、英語リスニング成績に有意な影響は認められなかった。

追試験での赤外線方式の実施に関して、戸惑いを感じた点が特になしと回答した受験者は約3分の2、使用方法の説明で分かりにくい点が特になしと回答した受験者は約4分の3にとどまっており、実施方式の改善の余地は大きい。ただし、戸惑いや分かりにくい点の有無に関して、英語リスニング成績への有意な影響は認められなかった。

ICプレーヤー方式と赤外線方式の比較に関する質問項目では、観点によって受験者の評価が異なる。音量調節のしやすさや長時間聴取時の疲れにくさという点では、ICプレーヤー方式が良いと感じる傾向が強いが、試験問題開始までの進行のスムーズさや周囲からの雑音の影響の受けにくさという点で

は、ヘッドホン方式が良いと感じる傾向が強い。ほとんどの観点では、評価値の違いは英語リスニングテストの得点に有意な影響を及ぼさないことが示された。

追試験で用いたヘッドホンに関しては、頭頂部のLEDランプの確認、音量調節つまみの操作、頭部への装着の調整方法について、戸惑いを感じたり、監督者の説明が分かりにくいと感じたりした受験者が目立つ。また、受験者がヘッドホンの受光部を偶然に手で覆ってしまったため、頭頂部のLEDランプが点灯せず、機器の不調を訴える事例があった。これは事前の想定にはなかったトラブルである。

赤外線方式で行った追試験の監督作業については、本部から試験室までの搬送において、ヘッドホンの容積が大きいかさばること、赤外線ラジエータを支える三脚が大きいことなど、運搬がかなりの負担であったことが、試験監督担当者から報告された。また、赤外線ヘッドホンはICプレーヤーと比べて大きいため、一度に監督者が持てる数に限りがあり、受験者への配布時間が長くなることが分かった。さらに、監督者間で一度に持てるヘッドホンの数に個人差があり、配布時間のばらつきが大きかった。

赤外線方式は、ICプレーヤー方式と比較して受験者による操作が少ないた

試験監督者登録

め、実施手順がシンプルになり、進行が円滑になる利点はあった。しかし、運搬・配布・回収や機器の設置などの試験監督者の負担は大きく、監督者による機器の操作が増えることによって

大規模実施では監督者のミスが出やすい可能性がある。大規模実施においては赤外線方式を実用化するには、試験監督者の負担減が課題になるだろう。

